

# 一般質問通告書

受領日時 令和7年 5 月 28 日 (午前) 午後 8時 35分 3番 氏名 伊藤 信子

質問項目	質問の要旨
1 備蓄米について	<p>(1) 現在、農家が政府の備蓄米に協力し、米不足解消に貢献しているが、その後の放出や市場価格の変動によって、農家が不公平感を感じる事態が生じている。特に、政府の買取価格と放出後の市場価格にギャップが生じ、農家はその差額を享受できないことは、農家の経済的利益に対する不公平感を生じており、今後の協力をためらわせる原因となりかねない。</p> <p>備蓄米の買い取り価格と市場価格のギャップに関する問題として、農家が備蓄米を政府に売る際に設定される買い取り価格 60 キロあたり 11000 円と、その後に放出された米の市場価格、約 21000 円が大きく異なる場合、農家はその差額を享受出来ない現状があります。このギャップにより、農家は不公平感を抱き、今後、備蓄米への協力を避ける可能性が高まります。この状況について、町としてどのように認識しているか。</p> <p>(2) 農家が安定的に備蓄米に協力するためには、政府や自治体がどのようにインセンティブを提供し、農家の協力意欲を維持できるかが重要です。市場価格との差額を考慮した適切な政策の改善が必要ではないかと考えます。町として、農家の協力を維持するための方策について、どのような対応を検討しているか。</p> <p>(3) 今後の備蓄米政策に関する提案として、農家の協力を確保し、米不足に備えるためには、今後、備蓄米の買い取り価格と市場価格のギャップを是正する方策が必要です。政府の補助や市場価格連動型の買い取り契約を導入するなど、農家が不公平感を抱かず協力できる仕組みをどう設計するか。町として、これらの提案をどのように取り上げることができるか。</p>

<p>2 買い物弱者支援のその後</p>	<p>(1) 前回の定例議会において、「買い物弱者支援に関して、農協とどのように関わっていくのか」という私の質問に対し、「近いうちに話し合いの場を設ける」とのご答弁をいただきました。</p> <p>そこでお伺いします。</p> <p>その後、農協との話し合いは実際に行われたのか？もし行われたのであれば、その内容や進捗状況についてご説明いただきたい。</p> <p>また、今後の連携の方向性についてもお聞かせください。</p>
<p>3 五城目町宣伝活動について</p>	<p>(1) 五城目町には、朝市をはじめとする歴史的資源、豊かな自然、地域に根ざした文化など、多くの魅力があります。こうした資源を町内外に広く発信する取り組みは、移住促進や観光振興、地域経済の活性化につながる重要な要素です。</p> <p>そこで、町の宣伝活動に関して、以下の点について質問いたします。</p> <p>現在、五城目町が実施している町の魅力発信・宣伝活動にはどのようなものがあるか具体的な事業名と内容についてご説明ください。</p> <p>(2) 宣伝活動に対する令和7年度の予算額はいくらで、どのように活用されているか、また、その成果や反響についての評価方法はあるのか。</p> <p>(3) デジタルメディア（SNS・YouTube・ホームページなど）を活用した情報発信について、現時点での取り組みと課題をどのように認識しているのか。</p> <p>(4) 他自治体では、地域おこし協力隊や民間団体と連携し、動画制作や移住プロモーションを強化している事例も見られる。本町においても、外部との連携を含めた広報の強化を検討する考えはあるのか、町長の見解を伺いたい。</p> <p>今後、五城目町の知名度や魅力度をさらに高めていくために、町としてどのような広報戦略を描いているのか、町長のお考えをお聞きしたい。</p>